

武士の時代の生活や文化を体験

わんぱくサムライ体験

5月26日(土)、郷土資料館で『わんぱくサムライ体験』(市主催)が開かれました。

この催しは、子どもたちに日本の伝統的な生活や武士の文化を体験してもらおうと、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』が中心となり、毎年開催しています。

今年も、姉妹都市・宮城県白石市の『白石三白』と呼ばれる特産品『うーめん』と『くず』の振る舞いや、『紙すき』体験を実施。流鏑馬や、各種団体による芸能披露などもあり、参加した約450人は思い思いに、春の一日を楽しみました。

5/26



▲行政相談委員の前川博さん(右)と垣内登紀子さん

皆さんの声を行政に届けます

一日行政相談

6月15日(金)、登別郵便局で行政相談委員会による『一日行政相談』が行われました。

この行政相談は、国や特殊法人(公団・事業団・銀行・公庫)、北海道、市の業務に関する苦情や意見、要望を受け付け、中立の立場から関係行政機関などに必要なあつせんを行い、その解決の促進、行政の制度・運営の改善を図るため、偶数月に行われています。

行政相談委員会への相談は無料で、秘密は固く守られます。市内には、前川博さん(☎011-852-360)と垣内登紀子さん(☎011-857-245)の2人が総務大臣から委嘱されています。

6/15



▲木馬にまたがって矢で的を射る流鏑馬の体験

命を守るのは日ごろの防災意識

津波避難訓練ウォーキング

6月3日(日)、『津波避難訓練ウォーキング』(登別本町2町会主催)が行われ、参加した町内会員68人が本町2丁目公園から高台の避難場所まで、約600mを歩きました。

今回の訓練は東日本大震災の経験を踏まえ、『津波警報が発令され避難勧告が出た』という想定で実施。参加者は持参した非常持ち出し用リュックなどを背負い、避難経路や避難するまでの時間を確認しながら高台までの坂道を登っていました。

また、この日は市や社会福祉協議会、警察などが協力し「突然の災害から命を守るのは、日ごろの防災意識」「一人での避難が難しい方を助けるには、家族や地域の連携が不可欠」など、災害から命を守るためのアドバイスがあったほか、車いすの扱い方についての説明もあり、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

6/3



▲車いすの扱い方を説明する社会福祉協議会職員と熱心に耳を傾ける参加者